

I 調査概要

1. 調査目的

平成15年から平成17年までの3年間の街頭犯罪・侵入犯罪の発生を抑止するための総合対策の推進に関する政策評価を行う上で、できる限り評価の客観性を確保するため、一般国民の意識を調査することを目的とする。

2. 調査時期

平成18年9月19日(火)～25日(月)

3. 調査方法

原則として、各都道府県警察本部(街頭犯罪・侵入犯罪抑止総合対策業務主管部門)の担当者が運転免許試験場等において、免許証の更新を受けるために来場した優良運転者講習受講者に対して調査票への記入を依頼し、回収する方法により実施した。

- ・調査総数(標本数) 5,626人
- ・有効回答数 5,606人(99.6%)

4. 調査内容

次の事項について質問した。

- (1) 回答者の性別、年代、居住地域、職業
- (2) 警察官の街頭での活動について
- (3) 犯罪の発生に関する情報について
- (4) 防犯対策について
- (5) 子ども全対策について
- (6) 自主防犯パトロールについて
- (7) 少年の非行集団について
- (8) 不安や迷惑を感じるような行為について
- (9) 治安について
- (10) 今後についての意見

5 . 調査結果まとめ

- Q 1 性別 「男性」47.9%、「女性」52.1%
- Q 2 年代 「20歳代」16.4%、「30歳代」21.0%、「40歳代」21.7%、「50歳代」23.0%、「60歳代」16.3%、「70歳以上」1.5%
- Q 3 居住地域 「住宅が多い」77.6%、「田畑、山林が多い」17.7%、「店や工場が多い」4.7%
- Q 4 職業 「会社員・公務員」42.5%、「自営業」10.1%、「パート・アルバイト」14.5%、「学生」2.7%、「無職」22.6%
- Q 5 街なかや交番で警察官・パトロールカーを見かける頻度
「よく見かける」が19.5%、「時々見かける」が60.4%と、両者を合わせ約80%が「見かける」と回答している。
- Q 6 今後の警察官の街頭活動のあり方
「現在以上にパトロールをしてほしい」が56.6%、「現在以上に交番にいてほしい」が17.9%、「各家庭を訪問してほしい」が4.2%。
一方、「現在のやり方で良い」は21.3%となっている。
- Q 7 身近で起きた犯罪の発生に関する情報の関心度
「とても関心を持っている」が66.0%、「少し関心を持っている」が30.9%。
殆どが「関心を持っている」と回答している。
- Q 8 犯罪情報の入手経路
「報道」が97.5%と突出している。次いで「人から聞く・口コミ」が41.6%、「回覧版、町会・自治会活動、自主防犯活動を通じて」が29.6%と続く。
- Q 9 全国的に犯罪の認知件数が減少していることに対する認知度
「増えていると思っていた」が68.8%と最も多く、「減っていることを知っていた」は8.3%と少ない。
- Q 10 犯罪被害に遭わないために実践している防犯対策
「新聞やテレビで犯罪の被害を防ぐための情報を得る」が59.6%と突出している。次いで「遠回りでも人通りの多いところを通る」が39.5%と続く。
「車、バイク、自転車には、厳重なカギやひったくり防止網等をつけている」、「近所の人と、身近で起きた犯罪について話す」、「家のドアや窓のカギを交換したり二重にしたりする」等は各々25%前後で並んでいる。
- Q 11 防犯対策に関する情報の入手経路
「報道」が89.8%と突出している。次いで「人から聞いた・口コミ」(29.2%)、「回覧板、町会・自治会活動、自主防犯活動を通じて」(26.7%)と続く。

Q12 子どもを犯罪から守るために行われている地域の活動

「PTAやボランティアによる登下校時の通学路における保護・誘導」が73.3%と突出している。

次いで「子ども110番の家」の活動(48.6%)、「警察やボランティアによる学校や通学路付近の防犯パトロール」(40.1%)と続く。

Q13 子どもを犯罪から守るために実践している防犯対策

「子どもとどのように気をつけるか話しあっている」が最も多く64.9%となっている。

次いで「不審者情報や子どもを取り巻く様々な情報を周囲から得るようにしている」が53.4%、「防犯ブザーを持たせる」が40.1%、「子どもと一緒に近所や通学路の危険な場所を確認している」が26.5%と続く。

Q14 住民による自主防犯パトロールを見かける頻度

「よく見かける」が18.4%、「時々見かける」が42.2%となっており、「見かける」と「時々見かける」を合わせると60%を超えている。

Q15 暴走族・不良グループ等の少年非行集団について

「あまり変わらない」が45.2%、「悪化した、又は増えたと感じる」が27.8%、「良くなった、又は減ったと感じる」が22.4%となっており、「悪化した、増えた」との回答が「良くなった、減った」を上回っている。

Q16-A ピンクチラシを見かける頻度

「よく見かける」が11.1%、「時々見かける」が42.6%、「ほとんど又は全く見かけない」が46.3%となっており、「見かける」の割合が半数以上を占めている。

Q16-B 街なかの落書きを見かける頻度

「よく見かける」が21.5%、「時々見かける」が56.7%、「ほとんど又は全く見かけない」が21.8%となっており、「見かける」との割合が80%弱となっている。

Q16-C 悪質な訪問販売や強引な勧誘・セールスを見かける頻度

「時々見かける」が50.8%、「ほとんど又は全く見かけない」が41.1%、「よく見かける」が8.1%となっており、「見かける」との割合が60%弱となっている。

Q17 過去3~4年における居住地域の治安の変化

「変わらない」が76.8%、「悪くなった」が14.7%、「良くなった」が8.5%となっており、治安は「変わらない」との回答が多くを占めている。

Q18 街頭犯罪・侵入犯罪の発生抑止のための警察の取組みについて

「必要性の高い取組みであり、これからも続けるべき」が69.1%で最も多い。次いで、「必要性の低い取組みが多く、見直すべき」が12.5%、「どちらでもない」が5.4%、「分からない」が13.0%となっている。